

山形県立致道館中学校・高等学校保護者等説明会 記録(要旨)

1 概要

会場	期 日	場 所	参加者	
鶴岡市会場	令和4年11月22日(火)	出羽庄内国際村	282名	合計
酒田市会場	令和4年11月24日(木)	酒田市総合文化センター	166名	448名

2 出席者

- ・保護者、地域の方々
- ・県教委 吉田教育次長(酒田市会場)、安部高校教育課長(鶴岡市会場)
舟山高校改革推進室長、奥山高校改革推進室室長補佐、外 高校改革主査3名

3 内 容 高校改革推進室長から説明後、質疑応答

4 質疑応答

(1) 申込みの際の主な質問(鶴岡市会場、酒田市会場共通)

(質問)

スクールバスは運行するか。通学方法に条件や制限はあるか。

(県教委)

東桜学館中学校・高校と同様に、致道館中学校・高校の通学区域は、県下一円になる。生徒の居住地が広範囲となるため、スクールバスの運行は現実的ではない。遠くから通う場合は、保護者等の送迎や公共交通機関の利用をお願いする。また、通学方法に条件や制限は設けないため、例えば「駅までは電車で、駅からは自転車で」などの通学手段も可能である。家庭で、子供の体力、通学に要する時間などを考え、6年間通学可能か検討いただきたい。

なお、公共交通機関に対しては、通学時間等の情報を共有し、運行時間等に配慮していただくよう依頼している。

(質問)

これまでの適性検査の内容は、知ることができるか。

(県教委)

東桜学館中学校が開校する前、平成27年1月に試行した適性検査及び作文については、県高校教育課のホームページに公開している。また、外国語については昨年度から実施になったため、サンプル問題を、同じく県高校教育課のホームページに公開している。

東桜学館中学校の適性検査及び作文の過去の問題については、高校教育課の入試担当が対応する。県のホームページを確認の上、高校教育課に問合せいただきたい。

(質問)

一貫生が致道館高校に進学するときは、どのように普通科・理数科を選択するのか。

(県教委)

致道館中学校では、機会をとらえて進路意識などを高めるキャリア教育を実施するとともに、これまで鶴岡南高校、鶴岡北高校で蓄積してきたノウハウを生かしながら生徒・保護者と面談等を実施し、高校卒業後の進路目標にはどちらの科で学ぶことが最適なのかを考えられるようにする。生徒が進路意識を高め、目標をもって生活できるよう指導するので、家庭でも早い段階から進路について話題にしていきたい。

(質問)

致道館中学校から致道館高校以外の高校へ進学できるか。

(県教委)

制度上、可能である。しかしながら、6年間一貫したカリキュラムを通して能力の伸長を図るという中高一貫教育の趣旨を理解した上で志願していただきたい。

(質問)

致道館中学校・高校では、授業料や諸経費はどの程度かかるか。

(県教委)

授業料については、致道館中学校では必要ない。致道館高校では、他の県立高校と同様に、年額118,800円、月当たり9,900円となる。高校の授業料は、保護者等の所得によって国から補助を受けられる「就学支援金制度」があるので、文部科学省ホームページで確認していただきたい。

諸経費については、致道館中学校・高校どちらも検討中であり、本日具体的に示すことができない。参考として申し上げますと、東桜学館中学校では、各教科テキスト代、生徒会費、給食費、研修旅行積立など、年額合計240,000円程度であり、これとは別に、入学時に制服・運動着の代金加わる。学習に関する経費や旅行積立は、周辺中学校よりもやや高めに設定されているようであるが、高校進学時に制服・運動着を新たにしなくてもよいといったメリットもある。高校については、現在の鶴岡南高校、鶴岡北高校を参考に申し上げますと、諸経費年額210,000円程度に、授業料年額118,800円と制服・運動着代等加わる。

なお、致道館中学校・高校の制服は、ブレザーのタイプ等により前後するが税別50,000円程度であり、運動着は税別14,000円程度となっている。

(質問)

移行期に当たる令和4年度、5年度の鶴岡南高校・鶴岡北高校のカリキュラムや開校後の学習支援をどう考えているか。

(県教委)

令和4年・5年度の鶴岡南高校・鶴岡北高校の入学者は、一貫校の基本理念を踏まえて編成する教育課程に基づいて、それぞれの高校で学習する。共通する教科については、原則、教科書、評価方法などをそろえ、開校後にスムーズに学校生活を送れるように配慮する。また、教科によっては習熟度別学習を取り入れるなどして、個人の学力差についても配慮することを検討している。

(質問)

障がいなどで配慮が必要な場合は、どうすればいいか。

(県教委)

致道館中学校・高校には、特別支援学級は設置しない。両校の校舎には、エレベーターを設置するなどのバリアフリー化を進めている。施設面以外においても、配慮が必要な点は、個人によって状況が異なるため、障がいなどで配慮が必要な場合には、中学校入学者選抜では、出願前に直接相談する機会を設け、学校生活に適應できるかを考えた上で出願を検討していただくことになる。高校の入学者選抜では、他の高校と同様に、中学校長を通じて相談していただくことになる。

なお、相談によって不利益になることは一切ない。心配な点は遠慮せずに相談いただきたい。

(質問)

市町村が中学生のいる家庭向けに実施している補助は、県立中学校でも受けられるか。

(県教委)

市町村が実施している補助については、こちらで判断することができないため、市町村教育委員会や、関係課に問い合わせさせていただきたい。入学や在籍の証明が必要な場合は、学校に申し出ていただきたい。

(2) 鶴岡市会場での質問

(質問)

致道館高校の1年次は、一貫生と高入生が一緒の学級となるのか。また、学習の進度はどちらに合わせるのか。

(県教委)

東桜学館高校では、1年次は一貫生と高入生の学級を分け、学習進度に配慮して授業を実施している。致道館高校での学級編制等については、東桜学館高校の先例を参考に、現在検討中である。

(質問)

一貫生の理数科の募集人員を、40名程度から広げることは考えているのか。また、希望しても理数科に進めなかった生徒で、どうしても理数科に進みたいとなれば、高校入学者選抜を受けることになるのか。

(県教委)

普通科・理数科については、中学校で面談等を実施して選択することになるが、理数分野に興味のある生徒は、理数科だけでなく、普通科の理系でも学ぶことができるため、理数科40名程度を大幅に上回ることは想定していない。また、一貫生が高校入学者選抜を経て理数科に進むことは想定しておらず、そうならないように、中学校の進路指導を充実させていきたい。

(質問)

致道館高校から入学してくる生徒について、2年次・3年次の学級編制はどのように考えているか。同様に、致道館中学校の学級編制はどうか。

(県教委)

東桜学館中学校・高校の先例を参考に、現在検討中である。

(質問)

鶴岡南高校や鶴岡北高校で実施している地域社会と連携した教育は継続するのか。

(県教委)

致道館高校では、鶴岡南高校と鶴岡北高校の伝統を引き継ぐ予定である。また、中学校においても、社会とのつながりを大切にしたいと考えている。

(質問)

教育基本計画のグローバル教育について、中学校の外国語の授業が標準と比べて33%多く設定されているが、行事等を組み換えて確保するのか。また、海外での研修について触れられているが、生活保護世帯に対して、県立中学校独自の補助は考えているのか。

(県教委)

外国語の標準比33%増については、純粋に授業を実施して増加するものである。海外での研修については、コロナ禍で具体的な検討が進められていないところであるが、県

立中学校独自の補助は考えていない。

(3) 酒田市会場での質問

(質問)

致道館高校の募集人員を、一貫生よりも高入生を多く設定しているのはなぜか。また、今後、一貫生の人数を増やす計画はあるか。

(県教委)

田川地区の県立高校再編整備により鶴岡南高校と鶴岡北高校を統合するため、楯岡高校1校を引き継いだ東桜学館とは定員が異なっている。一貫生の人数については、庄内地区の少子化の進行状況や周辺中学校への影響に考慮し、99名としたところである。今後、増やす予定はない。

(質問)

致道館高校1年次に一貫生と高入生と一緒に学習すると、一貫生の先取り学習が生かされないのではないか。

(県教委)

東桜学館の先例を参考に、学級編制や習熟度学習等の実施で対応する予定である。

(質問)

県立中学校入学者選抜では、新型コロナウイルスに感染して適性検査等を受けることができなかった場合に、配慮されるのか。

(県教委)

公立高校の入学者選抜に準じて対応することになる。

(質問)

県立中学校入学者選抜の適性検査問題について、公開する予定はあるか。

(県教委)

高校入学者選抜についても同様であるが、問題を公表していないのではなく、ホームページに掲載していないのが現状である。高校教育課に問合せをいただければお渡しするなどの対応は可能である。

(質問①)

飽海地区から鶴岡南高校に通っている生徒は何名か。

(県教委)

今年度入学した生徒については、飽海地区からは6名である。

(質問②)

鶴岡南高校の定員200名に対して、致道館高校の定員は280名であるが、定員を増やしたという認識でいいか。

(県教委)

現在の鶴岡南高校200名、鶴岡北高校120名、計320名に対して、40名減じている。

(質問)

教育基本計画には、進学について具体的に記載されていないが、致道館高校は進学校であるという認識でよいか。

(県教委)

鶴岡南高校と鶴岡北高校がこれまで担ってきた進学指導に力を入れていくことになる。

加えて、多様化している大学への進学方法等に対応できるように、探究的な学びの中で生徒の力を伸ばしていきたい。

(質問)

飽海地区から田川地区に通う生徒が増加することが考えられる。致道館中学校・高校の定員は、その点を考慮して設定したのか。

(県教委)

東桜学館に対して周辺中学校への影響等を調査した中間検証、庄内地区における子供の数の推移等を考慮して設定した。

(質問)

スクールバスの運行について検討いただきたい。

(県教委)

先ほど説明したとおり、現状としてスクールバスを運行する予定はないことを御理解いただきたい。

以上